

被災神社状況 (『神社新報』より転載)



発行所  
 三石神社社務所  
 神戸市兵庫区  
 和田宮通3丁目2-51  
 TEL (078)671-2531  
 FAX (078)671-7667  
 E-mail info@mitsuishi.or.jp  
 URL http://mitsuishi.or.jp

○ ご家庭・会社事務所に神棚を祀りましょう。  
 ○ お伊勢さんのお神札（神宮大麻）と三石さんのお神札を合せ奉斎しましょう。  
 ○ ご神札は、毎年末もしくは新年に新しく改めてお祀りしましょう。

### 東日本大震災への対応と復興に思う

三石神社 宮司 小林 友博

師走の候、氏子崇敬者の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のことと同慶に存じます。又、年頭の正月より一年間各種神事行事に対しましてご崇敬ご奉献を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本年は大地震をはじめ台風被害の多い年でありましたが、三月十一日に発生した震度七、M9.0の東日本大震災は、戦後最大となる一千年に一度の大震災であった。神戸に住み、平成七年の阪神・淡路大震災を経験し、まさに大震災であると思っていたが、東日本大震災のような大地震・大津波のダブル災害が広範囲に亘っているのを目の当たりにしては、阪神・淡路大震災と比べようがない。

早速に、神社界では一日も早い復興を願ひ「復興祈願祭」斎行の通達が神社庁より届き、当社も三月吉日に斎行した。

その後、日々詳細な神社被害状況が判明するに従って深刻さが増し、加えて東京電力福島第一原子力発電所事故も起こり、不安な情勢と不幸な報道が続く。死亡者一五、八二九人を数え、今もなお三、七二四人もの行方不明者があり、約七万人が避難を余儀なくされている（十月末日現在）。

菅内閣の緊急非常時の国家対応と遅々として進まぬ復興対策に批判も起こり、春の統一地方選挙では民主党が大敗したのは当然のことであった。過去にも三陸海岸では明治二十九年と昭和八年に地震と大津波があったが、明治二十九年の災害では、明治天皇は報告を受けると陸海軍の災害救援体制を迅速に発動し、侍従らを使として派遣し、被災民の慰問と金品の御下賜に当てられたのである。また、昭和八年の被災の例では、午前二時半の地震発生に対し、岩手県知事は午前四時に陸海軍に支援を要請し、これを受けた盛岡連隊が被災地に急行し、さらに海軍も駆逐艦など五隻が翌日午前にはすでに現地に到着し、各地で衣服や食料を配布して救援活動に当たっている。今の政府も、戦前の緊急非常時の国家体制を学ぶべきであろう。

そのような中で、大災害にあつてなお日本人が冷静で忍耐強く、秩序ある行動をとっている様を驚き、称賛する外国メディアの報道に、同じ日本人として誇りを感じた。

神社界での一都十五県の被災神社は、三、三三六社、本殿・拜殿等の全壊（津波流失を含む）・半壊等は二二八社との集計が出たが、原発事故の避難地域内はまだまだに状況の把握ができていないという（五月十七日

現在)。その被災神社に対する義援金を全国の神社を中心に募集したところ、約十二億八千万円（八月末日現在）に上った（当社の義援金報告は五月頁に記載）。

三月の天皇陛下の大震災に対するお言葉をはじめ、五月の本庁設立六十五周年記念大会での常陸宮殿下の、「被災神社の人々が神社と共に一日も早く復興し、地域の皆さんが集まる祭が盛大に行われ、人々に活力を与えることを願っています。」とお言葉は、被災神社のみならず被災者の長期復興への道のりに希望を与えるもので、私達神社人も互いに励まし合っていかねければならないと痛感する次第である。地域再生の原動力は、常陸宮殿下のお言葉にあったように、祭礼の復興であろう。祭りは地域社会の心を一つにして、今を生きる力を与えてくれるものである。

作家小松左京氏の『日本沈没』の小説には、戦後日本は復興し国民は繁栄を手にしたが、同時に日本人として大切なものを失ったことに警鐘を鳴らしている。失ったものは日本人としての誇りと国体観・郷土愛・鎮守の森（神社・祭り）等々枚挙に暇がないが、この日本という美しい国を「沈没」させてはならないのである。

平成二十二年十一月

七五三詣祈禱齋行

十一月中、七五三詣祈禱を齋行した。

近年、十一月十五日を中心とする七五三詣祈願はレンタル衣装の関係等で薄らいでいるようで、当社でも十月・十二月にも参拝する家族が増えて来ている。

当社では七五三に当たる子供さんの玉串奉奠や、拝殿内での記念写真撮影も行い、千歳飴やおモチャ・風船・おみやげセット等の他にキャラクタールバック等の記念品もお渡しして大変喜ばれました。



特設スタジオでの記念写真

期間中の土・日・祝日には会館二階に特設写真スタジオを設け、記念写真を撮っていただけるよう設備しています。

また、お宮参りにもご連絡頂ければスタジオを設備いたしております。

七五三詣写真 四、五〇〇円より  
初宮詣 写真 七、〇〇〇円より

マンション地鎮祭齋行

一日、兵庫区吉田町二丁目で約四十名参列のもと、浜山地区優良建築物等建築事業の十一棟目の「エクセルスカイ御崎公園」の起工地鎮祭が齋行された。

建物は鉄筋コンクリート造十五階建てで三店舗付の五十二世帯入居する共同住宅で、当日は設計監理の瀬戸本淳建築研究室社長が始の儀、事業主である岡三地所の岡社長が穿始の儀、施工者である今津・岡特別共同企業体の今津・岡両社長が鍬入の儀を執り行った後、地権者や来賓の神戸市都市計画総局・近隣自治会・コンサルタント等の各代表が玉串拝礼して、平成二十四年二月迄の長期工事期間中の無事故・無災害と早期完売を併せ祈願した。



祭典前の起工地鎮祭会場

祈願のご利益あつて今は全戸完売している。

平成二十三年一月

年頭氏子崇敬者繁栄祈願祭齋行

正月三日、第二十九回目となる「氏子崇敬者繁栄祈願祭」が総代・氏子崇敬者三十九名の参列のもと厳かに齋行され、今年一年の各位の安寧と



ご神前での琵琶演奏奉納

繁栄を祈願した。

本年の神前奉納は、平成二十四年のNHK大河ドラマ「平清盛」放映に先立って、琵琶による「平家物語」を薩摩琵琶錦心流一水会の加藤司水先生の「屋島の誉」と同会中野翔水先生の「敦盛」二曲が奉納された。

演目「敦盛」は、平家一門として十七歳で一ノ谷の戦に出陣した敦盛は、熊谷直実に捕まり首を取られるが、直実は我が子と同じ年頃の敵將



鳥居前での記念写真



玉串拝礼する代表者

三菱神戸  
造船所原  
子力工作  
部格納器  
工作課員  
を始め、  
施工社で  
ある近畿  
菱重興産  
工事関係

年頭より当社ご神前にて氏子崇敬者を始め、商店・事業所・会社等の家内安全・商売繁昌・会社事業所安全繁栄祈願参拝を奉仕すると共に、各会社奉斎の神棚で新年守護神祭(出張祭典)等を奉仕した。

工事安全祈願参拝

を哀れに思い、助けようとするが敦盛の覚悟もあって涙を流しながら首を落としたという。

参列者は悲しい語りと低い琵琶の音色の間、約九二六年前の一ノ谷の古を髣髴し、盛大な拍手を送った。

式典後、参列者一同破魔矢を持ち、鳥居前にて記念写真を撮り直会に入った。

十二月、  
三菱神戸  
造船所原  
子力工作  
部格納器  
工作課員  
を始め、  
施工社で  
ある近畿  
菱重興産  
工事関係

者ら二十名が参拝して、造船所内での鉄骨造平屋建のプラスト工場並びに塗装建屋新築工事の安全祈願参拝を奉仕した。

課員代表の久保課長、労組代表の杉本氏、施工代表の酒井部長らが玉串拝礼して今後の無災害工事安全を祈願した。

広報誌・マガジン誌に掲載

平成二十三年二月

社会福祉関係者が参画し協力し合いながら地域住民の福祉の向上を図るために、社会福祉法に基づいて設置された民間福祉団体である神戸市兵庫区社会福祉協議会が発刊する「ひょうごいきいきタイムズ」二月号の兵庫区百景を訪ねるシリーズ⑩として、当社が簡単な由緒説明と共に写真入で掲載紹介された。

また、クーポン情報マガジン『らいらっく』三月号の兵庫区特集に当社の安産お守りである「祈石」が掲載紹介された。

「安産祈石守り」には三つの石が入っており、小石の色が白二個なら男子、黒二個なら女子が産まれると

例大祭齋行と神幸式雨天中止

十七日午後六時からの例祭には、総代始め氏子崇敬者二十八名の参列

平成二十三年五月

いわれ、その確率も高いところから、多くの妊婦さんに求められています。ご家族・知人の方で妊婦さんがおられましたらお知らせ下さい。

NO.56 ひょうご いきいきタイムズ

三石神社

暦の上では春ですが、真冬の寒さが続いています。「ひと目日本の梅見・桜の花見といひ 蕾もふくらみ始めています。寒さに負けず春をみつけにかけましょう!

三石神社

三石神社のすぐそばにある三石(みついし)神社。ここは女神・神子(ひな)の御霊を祀っており、安産祈願で有名です。安産祈願には三つの祈石が入っており、祈石の色によって男の子、黒二個なら男子、白二個なら女子が産まれるとされています。ご縁の石はぜひお参りの方に向けてお参りしていただくと、お守りもいただけます。

Lilac 3月号 2013 vol.96

女性の身体は女性の手で癒される

女性施術師特集

美しい肌質が欲しい! 女性の手で癒される

「ひょうごいきいきタイムズ」と『らいらっく』





茅の輪くぐり神事

日で近隣会  
社関係者の  
欠席もあつ  
て、総代・  
氏子崇敬者  
二十二名の  
参列であつ

十七・十八日の両日、相殿に祀る  
素盞鳴大神の夏越祭を斎行した。  
十七日午後六時からの祭典は日曜

夏越祭（夏祭り）斎行

平成二十三年七月

たギャラリー全室に展示し、期間中  
約二〇〇名の来場者を迎え好評を得  
た。尚、地元の「朝日新聞」丹波版・「丹  
波新聞」（以上写真入り）「神戸新聞」  
丹波版に掲載報道もされた。



古民家での個展

の小さ  
な作品  
まで約  
五十点  
を、築  
百五十  
年の古  
民家を  
改造し

当社が所属する神道青年会  
神戸市支部（禰宜担当・副支部長）  
では、県神社庁神戸市支部の東日本  
大震災復興支援の一環として三日か  
ら五日の三日間、生田神社大海夏祭  
で開催した「復興支援物産展」を奉  
仕した。東北の名産品を販売すると

禰宜、復興東北物産展奉仕

平成二十三年八月

夏が無病息災を祈願した。  
一同が「蘇民将来、蘇民将来」など  
と唱えつつ左・右・左と三度くぐり  
更に、境内に設けた「大茅の輪く  
ぐり」神事では、宮司に続き参列者  
各位が玉串奉奠して祈願した。

たが、  
例年通  
り上野  
順子琉  
球舞踊  
研究所  
神戸支  
部に  
よる琉



神前奉納の琉球舞踊

共に義援  
金募集も  
呼びかけ  
た。物産  
展は大盛  
況で、す  
べて完売  
し、義援  
金も多く  
寄せられ  
た。



支援物産展

同会では、今後も被災地の情報を  
収集しつつ、日々変化してゆく被災  
地の要望に沿った復興支援活動を継  
続している。

平成二十三年十月

上棟祭（じょうとうさい）斎行

建屋に関する神事には、概ね地鎮  
祭から始まり、立柱祭、上棟祭、竣  
工式であるが、貞元元（九七六）年  
頃から立柱祭と上棟祭が同日に行な  
われ、現在は「建前（たてまえ）」棟  
上（むねあげ）」ともいい、上棟祭  
に重きを置いている。

『日本書紀』顕宗天皇の条に「築  
き立てる新しい柱は、この家長の御

心を鎮めるもの。しっかりとあげる  
棟や梁は、この家長の御心をもては  
やすものである」と家の安全と長久  
を祈る詞がある。出雲大社の古代真  
柱（しんのみはしら）が出土したよ  
うに、古代から建屋建築には中央に  
大柱を立てた。これを宮中の大極殿  
の柱にちなんで大極柱（だいごくは  
しら）と呼んだが、大黒神の大黒と  
同音であるところから大黒柱と称さ  
れ、この柱を立てることが重んじら  
れた。

近年、地鎮祭は執り行方が上棟祭  
をしない業者が多く、神事も少なく  
なった。芦屋市の生駒家では施主の  
希望もあり、十一日の大安日に上棟  
祭が斎行された。施主の声高な「千  
歳棟、万歳棟、永々棟」に合せ棟梁  
の振幣、棟の元末に位置した大工



上棟祭神事

二人が  
「おー」  
と応唱し  
て三度槌  
打ちを  
行つて、  
目出度く  
上棟の儀  
を執り終

え、今後も災害なく工事も進み立派な家に竣工するよう一同祈願した。

リーチスタッカー入魂修祓式齋行

二十日、数十年来より新年会社安全繁栄祈願参拝するなどして、当社を崇敬している港湾運送業等を営むニッケル・エンド・ライオンズ(株)が新規購入した荷役特殊自動車で、大型コンテナ等を積み運び降ろす機能を持つリーチスタッカーMR四五〇車両の入魂修祓安全繁栄祈願祭が、ポートアイランド営業所内で斎行された。

当日は、高畑社長を始め、関係者また車両運転手、更に自動車納入



入魂修祓式神事

業者等十五名参列のもと、代表者が玉串拝礼して今後の安全と社運の隆昌を祈願し

た。

このように当社では、崇敬者・施主・事業主等の依頼により、現地出張しての神事も奉仕いたします。丁寧で厳粛な祭典を執り行っており、先様より大変感銘を受けたと喜ばれています。出張祭典ご希望の方はご連絡ご相談下さい。

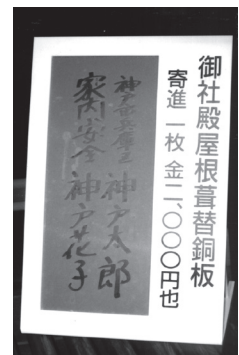
社殿屋根葺き替え事業・銅板

(含 申込・分納・追加、御寄進者ご芳名) 平成二十二年十一月から平成二十三年十月末日まで 順不同・敬称略

ご寄進誠にありがとうございました。



境内の奉賛芳名掲示板



銅板寄進案内板

趣意とお願

現社殿は昭和三十八年に竣工して、約五十年となります。銅板の寿命は約五十年といわれています。そこで将来銅板屋根の葺き替えを行なわなければなりません。

そのような事情により、皆々様に銅板寄進(一枚二千円)をお願いいたしております。

社殿銅板屋根にあなた様のお名前を残し、更なる三石大神のご加護により、貴社・貴家の益々の弥栄をご祈念申し上げます。案内申し上げます。

既にご奉納いただきました方々には重ねてのご案内となりましたことをご了承下さい。

新生児命名

平成二十二年十一月から平成二十三年十月まで

シリーズ

社務所・境内紹介

「本間孫四郎遠矢の図」

版画の大きさは、縦十六・五×横二十三cmの小品で、右側に「日本名勝和田岬本間孫四郎遠矢の図」と画題が刷られた多色刷りで、馬上から鳥を射った孫四郎と、見事な技に驚嘆した武士、沖には尊氏軍船が描かれ、弓と弦等がはみ出している画法は当時としては粋な図柄となっている。

『太平記』によると、延元元(一三三六)年湊川合戦の上陸舞台となった和田岬一帯で、新田義貞軍が浜で陣を構え、海上からは足利尊氏軍の軍船が押しかけ対陣した。この時、新田軍の弓矢の名人本間孫四郎重氏が魚を捕らえた鴨(みさぎ)が飛び去ろうとしたのを鏑矢で見事に仕留め(距離約六五〇mという)、足利軍船の上に落とすと記され、それ以来、この松原は遠矢の浜と呼ばれるようになり、さらに現在の「遠矢浜町」の地名を残すことになった。また、市立和田岬小学校校庭に「本間重氏遠射之跡」の石碑があ



本間孫四郎遠矢の図 (版画)

り、大阪府八尾市には墓所もある。作者は松川半山で、江戸時代後期から明治時代にかけての大阪の浮世絵師である。十二歳から絵を学び風景画を得意とし、幕末の頃「京阪名所図会」など名所絵や軍記物挿絵を多く残している。当版画も「日本名勝」と冠されているので、名所絵シリーズの一つであろう。当社会館二Fに額装掲示しているのでご観賞願いたい。

シリーズ

書籍に見る三石さん

『神功皇后発掘』

編著者高橋政清氏、監修者志村有弘・高橋貢・原田種夫氏らによって、叢文社より昭和六十二年に発行された『神功皇后発掘』は、編著・監修者を含めた十一名による分担執筆の神功皇后論を掲載している。

過去の関係研究書は、戦前の日本帝国主义の旗印の人物とされたことと、また戦後韓国の学者が侵略の三悪人(神功・秀吉・博文)に指名するなどしたことから、おおむね神功非在論としての出版であるが、神功



神功皇后発掘

伝承は全国に多く残っており(各風土記等)、神功を祀る神社も合祀を合せると数万に達する。神功皇后信仰がいかに広く及んでいたかを知ることができ、神功非在論ではこの信仰が生まれてこない。そこで神功実在論を論証して発行されたのが本書である。

高橋氏は「中国朝鮮の史料と古事記・日本書紀を照合すると神功皇后不在ではつじつまが合わず三十年間の天皇空位が生じる。明らかに実在である。記紀に見る仲哀九年の神功三韓出兵は高句麗の広開土王碑文にある辛卯の年の倭の来襲と比定して間違いない」と重要な発言をしている。本書は古代史に変革をもたらす一書となるであろう。

さて、本書の付録「神功皇后を祀る全国神社一覧」の兵庫県の項に「三石神社 神功皇后と鎮座地」が記載されている。それによると兵庫県下で神功皇后関係(摂社・末社を除く)を祀る神社は六十一社のみが表記されているが、これは『全国神社名鑑』(発行に協賛しない神社は掲載なし)等からの収録であるので、もれた関係神社も多数あると思われる。

平成二十四年の神社神事・行事予定

- 一月 一日 歳旦祭(初詣)
- 一月 三日 氏子崇敬者繁栄祈願祭  
(赤木・加藤・菊川 先生)
- 劍舞吟詩・劍舞・詩吟 奉納)
- 四月二十二日 氏子会総会
- 四月二十九日 猿田彦会総会
- 五月 十七日 例大祭(神楽奉納)
- 二十六日 地区子供みこし巡幸
- 二十七日 神幸式(おわたり)
- 六月 十日 氏子崇敬者親睦旅行
- 七月 十七日 夏越祭
- (琉球舞踊奉納・茅の輪くぐり)
- 十八日 (茅の輪くぐり)
- 九月二十三日 西宮神社産宮参り
- 十月 十四日 秋祭(天照大神祭)
- 十一月 中 七五三詣
- 各月 一日 月次祭

印刷所  
**(有)前川企画印刷**  
 神戸市兵庫区永沢町二丁目三十一  
 TEL (078) 5777-2488  
 FAX (078) 5777-7330